日時	2025年2月11日(火) 午後3時30分~午後5時30分
視察先	熊本県 黒川温泉観光旅館協同組合 事務局長 北山氏 旅館美里 北里氏
調査項目	黒川温泉の取り組みについて
調査内容	1. 入湯手形制度
	2. 景観づくりと環境整備
	3. 持続可能な観光の推進
	4. 人材育成と雇用促進
	5. 観光業の発展と新規事業
所 感	【入湯手形制度】
	・各旅館が持つ独自の温泉を利用し、お客様が選んだ3ヵ所の温泉を巡る「入
	浴手形」を販売。手形は地元産の杉や檜を使用。収益は環境保全にも活用
	【景観づくりと環境整備】
	・手形の売り上げを財源として、累計2万本の植樹を実施
	・共同看板の設置。看板の乱立防止や景観に配慮した自動販売機の塗装
	・共同雪駄、共同傘のシェアリングサービス
	【持続可能な観光の推進】
	○地域資源循環型モデルの導入
	・旅館の食品廃棄物を堆肥化し、農作物でのサーキュラーエコノミーを確立
	・2024 年に「バイオマス産業都市構想」に採択
	○環境保全活動
	・手形売り上げの 1%を環境保全に活用する計画の検討
	【人材育成と雇用促進】
	○採用サイトの運営
	・地域の暮らしと働き方の情報提供
	(年間 40 名の応募に対し 6~8 名を採用。うち多くが 20 代)
	○黒川塾
	・旅館従業員のリーダー育成を目的とした、キャリア形成を支援する研修プ
	ログラムを実施
	○里山研修
	・地元の食文化である赤牛やどぶろくなどを学ぶ機会の提供
	【観光業の発展と新規事業】
	○宿泊形態の変化
	・近年では素泊まりのニーズに対応する施設が増えており、飲食店の需要増
	加に対応するため、ある1軒の旅館が8店舗・250席の飲食店エリアを開
	発中。またグランピングや一棟貸しの施設も参入が始まっている
	◎豊岡市としても、地域資源の活用や環境保全、持続可能な観光モデルの導入、

人材育成の強化など、これらの事例を参考にして取り組みたい。